

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家開所 50 周年記念事業
「子どものための火山防災フォーラム」事業報告書

1 事業実施の背景

本事業は、交流の家開所 50 周年記念事業の一つとして計画された。

交流の家は、開所以来のプログラムである登山やスキーなどの体験を通じて十勝岳とともに歩んできたと言える。全国的に火山活動の活発化が懸念されているが、十勝岳を仰ぐ地域に住む青少年に対して防災に対する意識を高めてもらうとともに、温泉など火山がもたらす恵みについても正しく理解してもらうことを通して、地域理解、郷土愛を育む機会として事業を計画した。

また、美瑛町・上富良野町エリアでは、「十勝岳ジオパーク(美瑛・上富良野エリア)」構想として日本ジオパークの認定を目指したまちづくり、教育、環境保全のための活動をしていることも鑑み、開催にあたっては十勝岳山麓ジオパーク推進協議会と共催で実施すべく準備を進めてきたものである。

2 事業趣旨

十勝岳山麓に住む子どもたちが、活火山の成り立ちや火山がもたらす恵みなどについて理解するとともに、火山防災に対する意識を高める機会とする。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、上川管内教育委員会連合会、北海道青少年教育施設協議会

5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 9 月 24 日(土)～25 日(日)(1泊2日)
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 美瑛町、上富良野町、旭川市等近隣市町村の小学校 4 年生～6 年生
- ・募集 40 名
- ・講師 北海道立教育研究所附属理科教育センター 次長 金澤昭良 氏、主査 木下 温 氏
気象庁旭川地方気象台職員 火山防災官 小山 寛 氏

6 目的の達成指標(アウトプット)

(1) 参加者の満足度

7 広報

主な参加対象を、十勝岳の麓である美瑛町、上富良野町の小学生を対象として昨年度から十勝岳山麓ジオパーク推進協議会との共催で準備を進めてきたが、過去の事業参加者数からも参加が見込めないことが予想されたため、旭川市を含む近隣市町村にも広報を行うこととした。

なお、旭川市、美瑛町、上富良野町の小学校には対象学年全員分のチラシを配布した。

8 参加者人員・類型

参加者 32 名(定員比 80%)

内訳：学年別 4 年生 17 名、5 年生 7 名、6 年生 8 名

性別 男子 13 名、女子 19 名

地域別 旭川市 25 名、美瑛町 7 名

9 事業日程・内容

(1) 日程

	6:00	9:00	12:00	12:30	13:00	13:30	14:15	16:30	19:00	21:00	22:00
24 (土)					受付	開会式	① ハイキング 防災ハイキングコース	夕食	②講義・実験 火山の成り立ちと恵み	入浴	就寝
25 (日)	起床	朝食	③見学 「火山防災のABC」 (望岳台)	昼食	閉会式						

(2) 概要・運営のポイント

1泊2日の短い活動の中で「火山の成り立ちと恵み」をコンセプトとし、ハイキングや実験、見学など、体験活動の提供を基本とした。その上で火山の基本と、火山が怖い存在ではなく、地域にある身近な自然として共存していく存在とし、「知ること」「恵みを学ぶこと」「もしもの時の備え」を学習することで、地域に愛着を持って生活できるようにすることをねらいとした。

(3) 各プログラム内容

①ハイキング「防災コースハイキング」(135分)

【指導：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

交流の家で設定している防災ハイキングコースを歩き、火山噴火や自然災害が発生した際、被害を軽減するための備えや、過去の火山噴火による被害、火山噴火と周辺の自然環境への影響、人々の生活に与える恵みなどについてクイズ形式で具体的に学んだ。

参加者からは、「ハイキングは疲れたけど楽しかった」「写真と同じところを見つけるのが楽しかった」などの声があり、楽しみながら火山への備えなどを具体的に現地で学ぶ充実した活動であったことが伺えた。

なお、本プログラムのために従来の防災ハイキングコースプログラムから編集した児童向けの手引書を初めて使用した。



②講義・実験「火山の成り立ちと恵み」(120分)

【講師：北海道立教育研究所附属理科教育センター

次長 金澤昭良氏、主査 木下 温氏】

火山の成り立ちについての3D動画の視聴や、身近な器具や材料を用いて火山実験を行い、火山の成り立ちや仕組みなどについて体験を通して具体的に理解を深めた。

参加者は普段体験することのない火山実験に興味を持ち夢中になって取り組む姿が見られた。

実験に使う道具や材料は、身体に触れることや体内に入ってしまうことも懸念されるが、身近な食材を使用して安全確保に特段の配慮が見られた。



③見学「火山防災のABC（望岳台）」（180分）

【講師：気象庁旭川地方気象台職員 火山防災官
小山 寛氏】

十勝岳の登山口がある望岳台に建築中の防災シェルターや、火山砂防情報センターの監視システムなど普段立ち入ることのできない施設などを見学し、火山噴火が発生した時の避難施設の役割などを理解し、初日の学びと併せて防災への意識を高める学習を行った。

参加者からは、2日間の活動のまとめとして、講師への活発な質問があり、学習への高い意識が見られた。

なお、当日は秋の登山シーズンとも重なったため、望岳台は混雑しており、移動用のバスが転回するのにも苦労する状況で、シェルターの見学以外に実際に周辺を歩くことで火山岩などに触れてみる活動時間の確保ができなかったことが反省点である。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 26 81.3%
- ・やや満足 6 18.8%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は100%となった。

(参加者の声)

- 楽しかった (3)
- いい経験だった
- ハイキングしんどかった
- ケンカもなく楽しくできた
- 面白かった
- とてもよくできたと思う (2)
- とくに実験がよかった
- 友達と寝れて、火山のことも学べた。
- みんなについていけた
- 新しい友達ができた (5)
- 楽しく活動できたし、ごはんがおいしかった
- いろいろ火山のことを学びました
- すごく勉強になった (3)
- 全部の時間がちょうどよかったです
- ハイキングで写真と同じところを見つけるところ

(2) プログラム

- ・満足 24 75.0%
- ・やや満足 8 25.0%

(参加者の声)

- 実験やハイキングがおもしろかった (3)
- わからなかったことが詳しくわかった

- 木炭をみれてよかった
- 外にあった物はなぜこうなったのかを考えられた
- とくに実験がよかった（2）
- 多くの人とかかわれて良かった
- 早くみつけた
- よかった（5）
- ハイキングは疲れたけどたのしかった
- あまりすぐにはできなかったけどよかった
- いろいろ知れてよかった
- 火山の噴火がよくわかった
- ▲ケンカのようなものをしてしまった
- ▲やったことはよかったけど、ハイキングの距離が長かった

(3) 事業運営

・満足	23	71.9%
・やや満足	8	25.0%
・やや不満	1	3.1%

(参加者の声)

- 順序よくできた（5）
- とても楽しかったからよかった
- とくに久保さんの話がわかりやすかった
- いろんな自然を感じれてよかった
- よかった
- 話がちょっと長かったけど、すごくわかりやすかった
- たのしかった（2）
- 休憩時間をとってくれたこと
- めっちゃよかった
- イベントが楽しくできました（2）
- 時間を上手に使えた
- すごくわかりやすくてよかった
- スケジュールはいっぱいだったけど楽しかった
- ▲実験でカッターを使うところ

(4) 職員の対応

・満足	24	75.0%
・やや満足	8	25.0%

(参加者の声)

- やさしかった（4）
- 親切にしてくれた（2）
- みんな面白い人だった
- やさしく対応してくれた（4）
- とくにドラえもんがよかった
- チッカとかと話せてよかった
- 特にチッカ、しおりん、ドラえもんが知らないことを教えてくれた
- 笑顔で接してくれた
- 優しくて元気だった

- 優しく怒るところはしっかり怒ってくれていろんなことを教えてくれた
- わかりやすい説明でした
- よかった（２）
- なにをするか最初に説明してくれてよかった
- とてもやさしく話しやすかった
- ▲悪口をいわれたときの注意が少し・・・

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

1泊2日の短い日程で3つのプログラムによる体験活動であったが、参加者はおおむね目的意識、学習意識が高い児童が多かったこともあり、専門家を招いての理科学習内容を取り入れた事業に満足度が高く、「良い経験をした」「楽しかった」などの声が多かったため、目標は達成できたと考えられる。

<事業の指標に関する達成度>

- (1) 参加者の満足度 100%

11 事業の課題

(1) 参加対象者

今後の課題として、今回の事業は当初美瑛町及び上富良野町の児童を対象としていたが、両町の応募は少なかった。特に上富良野町は学校行事と重なったこともあり参加者が一人もおらず、十勝岳山麓ジオパークを推進する両町としてはジオパーク認定への機運を盛り上げる意味でも少々残念な結果となった。

なお、同様の事業をジオパーク推進協議会主催でも展開しており、その内容と一部重複することから、交流の家で行う事業として重要な要素である「宿泊体験」も行うことができることを前面に出して広報を行うことも今後の課題といえる。

(2) 事業プログラム内容

3つのプログラムについて、それぞれ専門性が高い内容を児童にわかりやすく、かみ砕いた内容で興味を引きながらも理解度を高めるように工夫されていたが、プログラム同士の関連性、事業全体のストーリー性を事業担当者として事前の十分な調整を行う必要性を感じた。

今回の事業は自然体験活動と学習指導要領に基づく教科の内容を組み合わせ実施できた事業として成果は大きく、今後の学校団体の研修支援利用のプログラム提供に資するものであった。

